

井原商工会議所 令和6年度 第1回 経営発達支援事業評価委員会 開催報告

1. 日 時 令和6年6月7日（金） 13時30分～14時30分
2. 場 所 井原商工会議所2階会議室
3. 出席者 末石 浩二 氏（ファイナルストーンコンサルティング 経営コンサルタント）
江原 晃治 氏（江原税理士事務所 税理士）
松田 悠 氏（井原市商工課 主任主事）
西田 卓史（事務局）
楠 大希（事務局）
4. 議 事 事務局より、令和5年度経営発達支援事業実績について説明した。その後、各委員から下記の意見があった。
 - (1) 5年前と比較して、企業・小規模事業者の状況は大きく変わっている。大きな目線での支援というより、より寄り添った支援が必要になってきているように思われる。商工会議所を中心として様々な専門家とタッグを組み的確な支援をしていく必要がある。巡回をして事業者の状況を理解していく行動はこれからより必要になる。時代に応じた支援のあり方を考えてもらいたい。
 - (2) 去年よりも進歩が見られる部分はある。一方で評価の低い項目もある。商工会議所の立場から目標を達成するために数字を追うのではなく、参加する事業者の立場からどのような支援が必要かを考えることも必要。そのためには、企業を訪問し、信頼を築くことを進めてほしい。
 - (3) 物価高騰など、事業継続に関わる脅威が続いており、今後も引き続き、市との関係を密にし、事業者支援に取り組んでいただきたい。
 - (4) 経営分析や事業計画策定支援について、経営発達支援計画の策定時の目標件数の設定根拠が曖昧であるため、事業者数の減少などを考慮に入れ、計画の更新の際には目標数値を再評価する必要がある。さらに、実績が伸び悩んでいる理由についても、原因を明らかにし、改善策を検討することが求められる。
 - (5) 専門家派遣などの会議所サービスについて、会報やホームページでの情報発信だけでは、事業者へ情報が正確に伝わっていない可能性がある。事業者を直接訪問し、現状を把握した上で、各事業者に適した支援サービスを提案することが、事業者がサービスを理解しやすい方法となる。そのため、経営指導員等による事業者の巡回を推奨する。
 - (6) 海外取引サポートは、小規模事業者では手を付けにくいイメージがあるが、専門家を活用することや中小企業庁が実施しているセミナーで小規模事業者でも対応は可能であるため、是非取り組んでいただきたい。
 - (7) フォローアップについて、職員がフォローアップに対する意識を高く持つことと、事業者にフォローアップを行うことのメリットを理解してもらうことで、持続的な支援が可能になる。

項目	自己 評価	委員① 評価	委員② 評価	委員③ 評価
1. 地域の経済動向調査に関すること	B	B	B	B
2. 経営状況の分析に関すること	B	C	B	B
3. 事業計画策定支援に関すること	C	C	B	C
4. 事業計画策定後の実施支援に関すること	D	D	C	D
5. 需要動向調査に関すること	D	D	C	D
6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること	D	C	C	D

7. 地域経済の活性化に資する取組に関すること	A	A	A	A
8. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること	A	A	A	A
9. 経営指導員等の資質向上に関すること	A	A	A	A

※評価基準 A：目標を達成することができた（100%以上）

B：目標を概ね達成することができた（80%～99%）

C：目標を半分程度しか達成することができなかった（30%～79%）

D：目標をほとんど達成することができなかった（30%未満）

以上